

so bad year

作 永山智行

妹 妻 夫

登場
人物

闇、からはじめよう。

その中に、ひとりの男と、ひとりの女。

夫、らしき男は懐中電灯を手にし、

妻、らしき女は、……壁を塗っている。

小さなラジカセが鳴っている。

暗くて分かりづらいが、ここは、その二人の住む家の、
庭の塀の前、らしき場所。

二人は、喪服、らしきものを着ている。

言い忘れたが、妻、らしき女が脚立にのり、塗っている
のは、ペンキではなく、コンクリート、のようだ。

夫、らしき男が、テープを止め、突然言い放つ。

夫(仮) もう、やめよう。

妻(仮) ……………。

妻、は黙々と壁を塗っている。

夫 ……………。

この国の国歌、らしき音楽が、微かに聞こえてくる。
二人、ふと耳をすます。

夫 ……………。

妻 あれ、何？

夫 ……NHK。

妻 NHK？

夫 ほら、「本日の放送を終了します」とかって…

妻 ああ。

夫 また隣だろ、どうせ。テレビつけっ放しで寝るし、すぐ。

妻 ああ。

夫 うん。

妻 ……もう、そんな時間なんだ…………。

夫 (ため息) ……………な。

妻 隣って、ひとり？

夫 え？…………知らないの？

妻 うん。

夫 ……ひとり、なんか、おばちゃんが。

妻 ふうん。

夫 何で知らないの？

妻 興味ない。

夫 いや、興味があるとか、ないとかじゃなくて、

妻 何？

夫 だって、そこにいるんだから。

妻 うん。

夫 ……、いいよ、もう。

妻 疲れるでしょ、それ、結構。

夫 え？

妻 懐中電灯。持ってるの。

夫 ……いや、別に。

妻 置いたら。

夫 いいよ。

妻 どっか、その辺とか、

夫 うん。

妻 立て掛けて置けば。

夫 いいって。

妻 じゃあ、そっこの、

夫 だから、いいって！

妻 ……。

妻、ふたたび壁を塗り始める。…黙々と。

夫 ……もう、やめよう。

妻 ……。

沈黙。

壁を塗る音だけが聞こえる。

夫 ……、服。…着替えるよ、服だけでも。

妻 ……。

夫 着替えるよ、俺。

妻 ……。

夫、出ていく。

すぐに戻ってきて、座り込む。

突然笑う。

妻 何？

夫 お前、案外似合ってるのかもな、それ。

妻 え？

夫 そういう仕事さ。壁、塗ったりとかさ。

妻 ああ。

夫 何ていうか、…色っぽい。

妻 ふふ。

わずかに見つめ合う二人。

ふいに視線を外す、夫。

夫 雨、…降るかな、明日。…あ、今日か……。

妻 ……。

夫 やるつもりだったんだ、本当、今度の日曜。朝からさ、一日かけて。だから勉強もしたし。…まずバケツ半分のセメントと、一杯半分の砂

を空練りします。次にバケツ三杯分の砂利を加え、さらによく空練り

します。それがすんだら山をつくり、凹みをつけて、水を加え、全体

を練り合わせます。…ほら。

妻 ……。

夫 ちゃんとできるんだよ、決められたとおり。だって勉強したんだか

ら…。

妻、突然出ていく。

夫 おい。

取り残される、夫。

夫 ……。分かん……。

しばらくして、

夫 まずバケツ半分のセメントと、一杯半分の砂を空練りします。次に

バケツ三杯分の砂利を加え、さらによく空練りします。それがすんだ

ら山をつくり、凹みをつけて、水を加え、全体を練り合わせます。…

ほら。

けれど、誰もいない……………。

ふと、中島みゆきの歌を口ずさむ、夫。

気づかぬ間に、妻、が帰ってきた。

妻 やめてよ、それ。

夫 え？

妻 中島みゆき。

夫 ああ。ごめん。…あれ、それどうした？

見ると、妻、は小さな投光器を持っている。
何も言わず、コードで電源につながるとうとする。

夫 ……持ってきたの？そこ、現場。

妻 借りただけ。

夫 借りた、って、

妻 朝には返す。

夫 ……え？朝って、…朝までやるの？

妻 雨降るでしょ、だって、急がないと。

明かりが点く。

そのわずかばかりのまぶしさに、しばらく言葉を失う二人。

妻 ……明るい。

夫 うん。…さっきまで、暗かったから。

妻 うん。

明かりを見ている……………。

夫、妻、を背中から抱く。

妻 いや。(と、夫、の手をはらう)

夫 ……。

妻 後からは嫌だって。

夫 ……。

妻、振り返り、夫、と正対して立つ。

立ちすくむ、夫。

ようやく、壁へと向かう、夫。コンクリートを塗ろうとする。

妻 しないで。

夫 いや、手、あいたから、俺。

妻 昨夜、

夫 え？

妻 昨夜、別のことを考えてたでしょ。

夫 ……別のことって……………？

妻 ……誰としてたの？

夫 いや…、別に……………。

妻 ……。

妻、夫、から道具を取り上げ、ふたたび壁を塗り始める。

夫 ……本当に俺、

妻 ごめんね。

夫 ……？

妻 こんなのはっかりだね、最近。

夫 いや……………、
妻 ごめんね。
夫 ……………。
妻 ね、…今日。
夫 何？
妻 もう、今日。
夫 だから、
妻 ちようど一年。…覚えてる？
夫 ……ああ。今日か……………。
妻 うん。
夫 そうか……………。
妻 うん。
夫 もう、一年か……………。
妻 (夫を見る)
夫 そりや、…壁もボロボロ。
妻 うん。
夫 俺もやる、やっぱり。

と、出ていく、夫。
しばらく夫、の去った方を見ている、妻。
家の中から、電話の音が聞こえてくる。
しかし、妻、は動かない。
八回ほど鳴った後、ようやく音はやむ。
夫、木片を持って帰ってくる。

夫 電話鳴ってなかった、今？
妻 ううん。
夫 ふうん。…借りてきた、これ。そこ、現場。…

夫、妻、の隣の脚立に登り、木片を使ってコンクリートを塗り始める。

夫 ……あれ、やっぱりモデルハウスかな。なんかそれっぽいけど。
妻 ……………。
夫 でっかい家だよな。いくら、するんだろ？
妻 ……………。
夫 やっぱりあれだ、白い大つきな犬なんか飼ってて、庭を走り回ったりするんだ。「待ってー、ペス」とか言って。
妻 ……………。
夫 ウチも飼うか、対抗して。柴犬かなんか。
妻 ……………。
夫 それとも、住む、あそこに？
妻 いい。
夫 ……………。

二人、ただ黙って壁を塗る。

夫 (塗りながら) ……なんか、前もこんなことあったかな。
妻 ……………。
夫 こうやって、なんか、並んでさ。
妻 ……………。
夫 何だったかな、あれ。
妻 ……………。
妻 壁を、……………塗る。
妻 (突然) もう、いい、やっぱり。

そう言つて、脚立を降りてしまふ。

夫？

妻 なんか、違う。

夫 何が？

妻 ……。

夫 おい。

妻 ……。

夫 何だよ！

妻 ……わかんない。

夫 ……。

夫、も脚立から降りる。

夫 ……どうするんだよ？…やめるのか？

妻 ……。…なんか食べる？

夫？

妻 おにぎりとか。…私、行ってくる、コンビニ。

夫 ……、(ため息)

妻 何？何がいいの、おにぎり。

夫 ……あのさ、

妻 おにぎり。…何？

夫 ……、何でしょう？

妻 ー…、ツナマヨ。

夫 ブッブー。こんぶでした。

妻 残念。

夫 わかんないのかよ、俺の好み。

妻 ……。

夫 何やってるんだよ、俺たち…。

妻 ……こんぶ。

妻、出ていく。

しばらく立ち尽くしている、夫。

夫 あー、もう！

そう言つて、乱暴に壁を塗り始める、夫。

若い女が庭に立つ。

自由で軽い着こなし。

後で分かることだが、夫、の妹、のようだ。

妹(仮) 何やっちゃよつと？

夫 !

妹 こんな夜中に、そんな格好して。

夫 ……。

妹 ……あー、もう、ベリー・タイヤードや。つかれたー！

妹、はそう言つて、座り込む。

妹 わかりにきねー、ここ。も、グルグルグルグル、歩いた、歩いた。

…あれ、義姉さんは？(少し声を落として) あ、もう、寝ちよつと？

夫 ……いや、ちよつと…

妹 ふふ。久しぶりに聞いた、兄ちゃんが声。ロング・タイム・ノー・

シーやもんね。

夫 お前…、

妹 何？

夫 ……何してる？

妹 会いに来たんやがね、兄ちゃんに。喜んでよー。

夫 ……。

妹 それとも嬉しくね？
夫 いや……………
妹 ふふーん。…元気やった？
夫 ……………うん。
妹 あたしも。…ね、ここ、借家やっど？
夫 うん。
妹 ふうん。…いいね。
夫 何が？
妹 なんか、愛する二人の隠れ家、つて感じやがね。「ア・ハイドアウト」
夫 何？
妹 「ア・ハイドアウト」。隠れ家。
夫 英語、
妹 ン？
夫 英語、……………習っちゃったか？
妹 イエース・オフコース。…信じられんかもしれんけど、ウチの近所にNOVAができたっじやよ。ほら、県道沿いの、ヨシミ叔父さんの畑んどこ、あそこが今ね、NOVAやっど。すげーやろ？
夫 ふふ。…来る人、おっど？
妹 いるいる。もう、あの辺今ね、英語ブームやもん。ヨシミ叔父さんもやってるんやから。
夫 ふふ、想像でけん。
妹 あ、そういえば、あそこのケンジ君よ、結婚したよ。
夫 え、誰と？
妹 なんかね、フィリピンの人。飲み屋で知り合ったんやっど。
夫 反対したやろ、叔父さん。
妹 も、大変やったよ。でも、ほら、会って見たら、なんかいい人だね。日本人の若い女より礼儀を知ってるって、言っちゃったもん。
夫 へー。
妹 ……………懐かしい？
夫 ……………。…お前、何でここがわかったんよ？

妹 義姉さんに教えてもらったよ。
夫 え？
妹 あ、義姉さんって、前の義姉さんね。だから、今の義姉さんの、お姉さん。
夫 何で、あの人が、ここを？
妹 知らん。
夫 どうやって、調べたって？
妹 だから、知らんって。
夫 ……………。
妹 本当やよ。あたしは、ただ住所を覚えてもらっただけやっどやから。
夫 ……………。…、会ったり、してるのか？
妹 うん。…時々。
夫 ふうん。
妹 ……元気やよ。
夫 ……………。
妹 ……ひとりで住んでる、まだ、あそこに。
夫 ……………。
妹 ……髪、短いよ、今。
夫 ……え？
妹 ま、あれはあれで、似合っちゃっど思うけど。
夫 ……………。…お前、どうやって来た、ここまで？
妹 (親指をだして) これこれ。
夫 何？
妹 (英語風発音) 「ヒッチハイク」
夫 ヒッチハイク？
妹 イヤー！「ヒッチハイク」
夫 ここまでずっどか？
妹 うんにや。何やっただけ、ここに一番近い駅、あそこまで新幹線とJ
夫 Rで来て、後は…、「ヒッチハイク」
夫 ああ。

妹 大変やった。も、全然車通らんとやもん。
夫 大丈夫やったつか？
妹 何が？
夫 こんな夜中に、ヒッチハイクなんかして。危なくなかったかよ？
妹 ふふ。
夫 何よ？
妹 だってあたしなんかより、兄ちゃんの方がずっと冒険してるがね。
夫 ……。
妹 ……冗談やよ……。
夫 ……。
妹 ……帰りたい？
夫 ……うん。
妹 え？
夫 嘘よ。
妹 ……もー！
夫 ……お前、腹はへっちゃらんとか？
妹 ……へってる！ベリー・ハングリィー！
夫 ……じゃ、待っとけ。今、…行ってるから、コンビニ。
妹 ……あ、義姉さん？
夫 ……うん。
妹 ……何で？あたしが来るの、わかってた？
夫 ……ふふ。…夜食を買いに行っただけ、俺たちの。
妹 ……ああ。
夫 ……おにぎり、やるから、俺の分。
妹 ……ね、何やちよつと、兄ちゃんたち？
夫 …………、壁を、……塗ってる。
妹 ……何で？
夫 ……だって、壊れそうだから…。
妹 ……何で、こんな時間に？

夫 わからん。
妹 え？
夫 俺も、わからん。
妹 ……義姉さん？
夫 …………うん。
妹 ……ふうん。…で、何でそんな格好しちよつと？
夫 ……お通夜に行ったから、近所の人の。
妹 ……じゃ、帰ってきてそんまま？そんまま塗りはじめたと、義姉さん？
夫 ……うん。
妹 ……何で？
夫 ……だから、わからんって。
妹 ……何かあったんじゃないと、お通夜で？
夫 ……いや、別に。
妹 ……じゃ、突然？
夫 ……うん。
妹 ……へー。…大変やね。
夫 …………、シャワーでも浴びるか？
妹 ……うん、ちよつと待ちよつと。いっばい歩いたから、足が痛で。
夫 ……ヒッチハイクしたんじゃないか？
妹 ……だから、車拾うまでよ。ちよつと揉んで。
夫 ……妹、のところへ行き、
妹 ……ここか？
夫 ……うん、そこ。
妹 ……妹、の足を丁寧に揉む。
夫 …………、結構歩いたよ。一時間ぐらい。
妹 ……どんな人やった？

妹 え？何が？

夫 お前をのせた人よ。

妹 ？

夫 ヒッチハイク。

妹 ああ。…何、気になる？

夫 別に。

妹 (突然) あ、痛てっ。

夫 あ、ごめんごめん。

妹 ……そうっとして。

夫 うん。

妹 ……カツコイイ人やったよ。外人みたいな。

夫 ふうん。

妹 でもね、指輪してたから、我慢した。

夫 ……何を？

妹 さあ……………。

夫 ……。

妹 (突然) ふふふ。

夫 ？

妹 嘘。…おばちゃん。ふふふ。

夫 ……。

妹 もう、怒らんでよー。

夫 ……はい、おわり。

夫、揉むのをやめる。

妹、両手をだす。

夫 ……何？

妹 シャワーのどこまで連れてって。

夫 ……。

妹 だって足が痛いんやもん。

夫 ……、ほい。

と、妹、の前にしゃがみこむ、夫。

妹 (英語風発音) 「サンキュー」

妹、夫、の背中にのる。

夫 ……お前、…なんか……………

妹 何？

夫 ……。

妹 何ね？

夫 ……、重くなつた？

妹 うわっ、失礼やー。

夫 違つた？

妹 その通り。

夫 なんよー。

妹 倒れんでね。

夫 誰がよ？

妹 兄ちゃん。

夫 倒れるか、こんぐらいで。

と、夫、は突然走りだす。

妹 うわっ、やめて。

楽しそうに、庭を走り回る、夫、と、妹。

ストンと暗くなる。

妻、がコンビニの袋を持って立っている。
妹、の背中に、夫、がのっている。

妹 (気づいて) あ。
妻 ……………。

夫、あわてて、妹、の背中から降りる。

妹 …… スキンシップですよ、スキンシップ。久しぶりに会ったから。
妻 ……………。

妹 …… (軽く頭を下げ) ども。 …… あの、何であたしがここにいるのかって思いかもしれませんが、 …… あたし、聞いて来ただけですから、 …… あの、 …… (妻を指して) お姉さんに。別に頼まれて来たとか、そういうんじゃないくて、ただ純粹に、兄ちゃんに会いに来ただけですから。 …… あ、あの、兄ちゃんが、内緒であたしにここを教えたとか、そういうこともないですからね。あたしは——

夫 (妹、に) おい。

妹 だって、

夫 もういいから。

妹 ……………。

妻 …… テレビ、

夫 え？

妻 テレビ局だった、やっぱり……………。

夫 だから、ローカル局だって。そうだとしても。

妻 また、撮られた。

夫 え？

妻 コンビニから出たら、立ってて……………。

夫 ああ……………。

妻、そのまま、夫、の胸へ。
夫、軽く抱き、

夫 …… 大丈夫だって。

妹、二人の側で、為す術なく立ち尽くす。

妹 …… 兄ちゃん、トイレ貸して。

夫 うん。

妹 シッコしてくっじ。

夫 ……………。

妹、出ていく。

夫 …… …… おい。

妻 うん。 …… ごめんね。 …… 食べる？

夫 あ……………

妻 何？

夫 …… うん。 食べよう。

妻 (袋からおにぎりを出して) はい、こんぶ。

夫 うん、ありがとう。

二人、座っておにぎりを食べる。

夫 …… それは(妻、のおにぎり)？

妻 焼きたらこ。

夫 ああ。

妻 食べる？

夫 …… うん。

妻、夫、におにぎりを渡す。
夫、食べてみる。
おいしそうに……………

妻 (突然) ……何の話、してたの？

夫 いや、…いろいろ。

妻 懐かしいふるさとの話？

夫 そんな、大したアレじゃなくて、

妻 あの人の……………、こととか。

夫 ……………いや。

妻 嘘。

夫 本当だって。

妻 だって私……………

夫 何？……………！、聞いてたのか、もしかして？

妻 ……………、やっぱり。

夫 ……………。

妹、帰ってくる。

妹 暗れねー、ここんトイレ。タイのトイレみたい。

妹、放りだされたコンビニの袋に目をとめる。

妹 ……兄ちゃん。おにぎりは？

夫 あ、ごめん。忘れてた。

妹 ……………。

夫 ……ちよつと買いに行ってくる、コンビニ。

夫、出ていく。

残される、妹、と、妻。
妻、脚立にのり、壁を塗り始める。

妹 ……子供、つくらなかつたんですか？

妻 ……………。

妹 つくっちゃえば、はつきりするのにな。

妻 ……………何が？

妹 ……義姉さんが、兄ちゃんの、…奥さんってこと。

妻 ……………、「義姉さん」って、言わないで。

妹 何でですか？だって、兄ちゃんの奥さんだから、…「義姉さん」じ

やないですか。

妻 結婚してない。

妹 そりゃ、戸籍上はまだ、前の義姉さんが、奥さんだけど、…だけど、

もう…、だから、つくればいいじゃないですか、子供。

妻 ……………。

妹 嫌なんですか？

妻 ……………。

妹 ちゃんとしてる、…んでしょ。

妻、は壁を塗る。

妹、座る。

妹 ……元気ですよ。義姉さんの、…お姉さん。

妻 ……………。

妹 気には、ならないんですか？

妻 ……………。

妹 あたしは、ダメやなあ。だって、気になってしょうがなかつたもん、

兄ちゃんがこと。

妻 ……………。

妻、は壁を塗る。

妹 ……テレビ局って何ですか？…何かあったんですか？

妻 ……。

妹 ……来てるんですか、どつかそのへんに？

妻 ……。

妹 ……。…喋らなくていいですよ、義姉さんは、もう。…だって、

あたしと喋ると、つい思い出すでしょ。

妻 ……。

妹 喋らないようにしてるんでしょ、向こうの言葉。だから。…聞きた

くないですもんね、こんなとこまで来て。「壁、塗いかたし、うぜひけ
した」、とか。

妻、脚立を降り、出ていく。

見送る、妹。

バッグから携帯電話を出し、ダイヤルする。

妹 ……。…なんけ、寝ちよったと？…ううん、今、兄ちゃんがとこ。…

言ったがね、行くって。…あんね、…。…よかよ。…あの話よ。…今、

決めた。…うん、こっちに婚姻届持ってきちよいかい、書くわ。…で、

渡せばいいんやろ、あんたに。…しょうがねやろ、だって。…別にそ

ういうわけじゃねえけど。…いいがね。…また、帰ってから話するか

ら。…うん。…じゃあね。おやすみ。

妹、ため息。

バッグから、書類を出し、ボールペンで記入をはじめめる。

すぐに詰まってしまう、また電話をする。

妹 ……。…この、「戸籍の筆頭者」って、誰書くの？…婚姻届よ。…ウチ、

お父さん死んじよつとやけどいいと？…ああん。

妻、戻ってくる。

妹 ……も、よか。…帰ってから、お母さんに聞いわ。…うん。

妹、電話を切る。

妻、壁に向かおうとする。

妹 (書類を示して) この、「戸籍の筆頭者」って誰書くか知ってます？

妻 ……。…知ってるの、…兄さん？

妹 ああ、そうか、兄ちゃんは書いたことがあるんですもんね。

妻 そうじゃなくて、

妹 え？

妻 ……(書類を指して) その、こと。

妹 ああ。…でも、クライなんですよね、兄ちゃん、マサルのこと。言

ったら、絶対怒るから。

妻 ……。

妹 悪い人じゃないんですけどねえ。

妻 誰が？

妹 マサル。…義姉さんが言ってくれませんが、兄ちゃんに。こう、…そ

れとなく。

妻 それは――

妹 あたしも本当は、そんなにしたいわけじゃないんだけど、仕方ない

から。

妻 ……。…何が？

妹、下腹部を押さえてみせる。

妻 え？

妹 だから義姉さん、言ってくださいよ。…あたしも、義姉さんの味方

妹 しますから。
妻 ……味方、って？
妹 いや、……………いろいろ。

妹、あわてて書類をバッグに戻す。
夫、コンビニの袋を提げ、帰ってくる。
息が切れている。

夫 (妹、に袋を渡し) ほい。

妹 走ってきたと？

夫 うん。

妹 何で？

夫 お前が、「ハングリー」だと思って。

妹 ありがと。

夫 うん。

妹 ……あ、あたしこれ、中で食べるね。

夫 え？

妹 シヤワーも浴びたいし。…じゃ。

妹、はさっさと出ていく。

夫 ……、なんだよ……………。

妻、壁を塗る。

夫 ……テレビ局、いなかった。
妻 うん。

夫 気づかない、多分、誰も。…もし、うつってても。

妻 うん。

夫 気にするな、だから。

妻 うん。

夫、座る。

夫 ……今時、別にあんまり珍しくもないんじゃないかな、あんな事件。だって、やっぱり、結局夫婦の間のことだし。

妻 (振り返り、夫、を見る)

夫 ん？

妻 ……。

夫 何？

妻 ……行くの、同窓会？

夫 ……え？

妻 明日、七時…、(訂正して) 今日、夜、七時から。

夫 ……それ……………、ああ！(妹、の去った方を見て) ……あいつか。…

言っただんだ……………。

妻 行くの？

夫 ……。

妻 来るんでしょ、…あの人。…来るわよね、だって、同級生なんだから。

夫 ……俺は、

妻 何？

夫 ……だから、あの人に、会いに行くとかじゃなくて、…だって、俺だって、昔の友達に会いたんだよ。もう、ずっと会ってないし。こっち来て、別に友達ができたとかそういうんじゃないかと、お前と、ずっと二人で、…いや、別にそれが嫌だって言ってるんじゃないけど、…変化、っていうか、なんか、こう、昔の友達に会って、ほっとするよ。うな、さ、…分かるだろ。ちよつと、ほっとしたいだけなんだよ。別に、そんな、大したことじゃなくて。ちよつと行って、帰ってくるだけ。実家とかには、絶対行かないし、終わったら、絶対すぐ帰ってくるから。

妻 行くんでしょ、だから。

夫 だから――

妻 会うんでしょ、あのの人に。

夫 ……、そりゃ、来てたら。

妻 来る。

夫 ……わからんよ、そんな…

妻 絶対、来る。そういう人だもん、あの人の。

夫 ……会っても、別に、何も無いよ。

妻 あの人が泣いたら？あなたの目の前であの人が泣いたら？それも、何でもなくいられる？

夫 そんな…

妻 そういう人よ、だって、あの人の。泣いてみせるぐらい、平気でできるんだから。

夫 お前、ちよつと、意地悪く見過ぎなんじゃないか、自分の、…姉さんを。そんな、企んで、何かするような人じゃないだろ、あの人の。

妻 企んでない。企んでなくても、本当にその気になって、自分のことだっただませるのよ、女は。

夫 ……だって、そんな、…そんな人じゃないよ、あの人は。俺は、ずつと、…見てたんだから。

妻 そのままずっと見とけばよかったのに。

夫 ……何で、そんなこと言うんだよ。

妻 ……

夫 行かないよ。

妻 ……

夫 こうなると思ってたんだよ、どうせ。…黙って、手紙置いて行くことも思っただけさ。

妻 行けばいいじゃない。

夫 行かないって、だから。

妻 何で？

夫 何でって…、行けば、あの人の思うつぽになるんだろ？

妻 ……どうせ、あの人の思うとおりになるのよ、何でも。

夫 そんな人間じゃないだろ。…だって、あの人の思いどおりにならないように、こうやって、逃げてきたんだろ、俺たち？

妻 これが、あの人が思ったことだとしたら？

夫 え？…何言ってるか、わかんないよ。

妻 ……

夫 だから、もういいじゃないか。行かないことにしたんだし。これ、あの人の思いどおりじゃないだろ？

妻 ……

夫 それとも、こうやって俺とお前にケンカさせるつもりだったのか、あの人の、…これで…。(ズボンのポケットから、往復ハガキをだす)

妻 ……

夫 案内状。同窓会の。

夫、ハガキをバラバラに破いてみせる。

夫 ……ほら。

妻 ……

夫 ……シャワー、浴びてくる、俺も。

夫、行きかけると、家の中から電話の音が聞こえてくる。

妻 ……

夫 あ。

夫、駆けだす、前に、切れた。

夫 ……誰だよ、こんな時間に。

夫、ふと、妻、を見て、

夫 ……さつきも、鳴ってたんじゃないのか、本当は？
妻 ……。

妹、がペットボトルを片手に戻ってくる。

妹 電話切られた、あたしがでたら。

夫 あん。

妹 あれ、受話器が外してあったけど、戻したのまずかったけ？

夫 ……、いや。

妻 ……。

妹 ……（突然）だからね、あたしも、本当はそういうつもりはなかったんやけど、…もう仕方ねえかなって。別に兄ちゃんの真似するわけじやねえけど、同級生やし、も、腐れ縁かなって思ったりもして。お母さんもね、そうやって言うのよ、「そういう運命じゃない」って。だから、まあ、いい機会だったのかもしれないし、…ごめんさい。

妹、突然、頭をさげる。

夫 ……、何？

妹 え？（顔をあげて、夫、を見る）

夫 何の話？

妹 ええっ？

夫 は？

妹 あ、……

夫 何だよ？

妹 ああ……（と、妻、を見る）

夫 何のこと言ってるの？

妹 ……、あたし、まだ、シャワー浴びてないから。

妹、あわてて、出ていく。

夫 おい。

夫、追いかけていく。

残された、妻。

静かに妹、のバッグのところへ行き、それを開けると、さきほどの書類を取り出す。

しばらくながめた後、突然、それを破りはじめる。

細かく、細かく……

そして、

地面に散らばった紙片を、呆然とながめている。

夫、戻ってくる。

髪やシャツが濡れている。

妻 （見て）一緒に浴びたの、シャワー？

夫 いや。風呂場まで追いかけたら、かけられた、水。

妻 ふふ。楽しそうね。

夫 （散らばった紙片に気づく）

妻 破いといてあげたから。

夫 ？

夫、散らばった紙片を拾い、読む。

夫 （妻、を見て）……。

妻 子供いるって、おなかの中。

夫 ……マサルか……。

妻 そして、五十年後、妻は夫に首を絞められ、殺されるのでした。めでたしめでたし。

夫 おい。
妻 何で結婚するの？…何で結婚したの？…つまんない。
夫 何が？
妻 夫婦って呼ばれて、一緒にいなきゃいけないみたいに決められて、子供つくんなくちゃいけないみたいに決められて、年とって、寝たきりにさせられて、面倒みなくちゃいけないみたいに決められて、
夫 決めてないって、誰も。
妻 決めてない？
夫 決めてない。みんな自由にやってるよ。
妻 そう。
夫 …じゃあ、どうすればいいんだよ、男と女って？
妻 愛し合う。…印鑑とか、届とか、戸籍とか、子供とか、世間とか、法律とか、…全然関係ない。
夫 できないよ、そんなこと。だって……………、疲れるだろ。
妻 疲れたの？
夫 え？
妻 疲れたわよね。もう一年も、こんな……………。だから、行ってくればいいじゃない、同窓会。
夫 またかよ。もう、いいってその話は。
妻 だって、疲れたんですよ。
夫 だから、…それは、俺の話じゃなくて、…あいつらの、…あいつとマサルの……………。だって、子供生まれたのに、籍入れてないと、…疲れるんだよ、いろいろ。…いるだろ、そういう人、いっぱい。
妻 あなたは？
夫 何？
妻 あなたは、疲れてないの？私と、こうしてて。
夫 疲れてないよ。
妻 嘘。
夫 疲れてないって。
妻 だって、

夫 だから、疲れてないって！
妻 ……………。
夫 ……………。
妻 夫、座り込む。
妻 ……………。やっぱり、もっと遠くに行つとけばよかった。
夫 ……………。ロシアか。
妻 Я не японка. (ヤー ニエ イエポーンカ) Я человек. (ヤー チェラヴェーク)
夫 ……………。何？
妻 ……………。何？
妻 ……………。何？
妻 私、人間です。
夫 ……………。あいさつ、覚えろよ、それより。
妻 ……………。
夫 そんなに、嫌か……………。ここ。この国。
妻 ……………。私は、早く、何者でもなくなつてしまいたい。何者でもなくなつて、あなたとだけ、愛し合つて……………
夫 (本来のイントネーションで) なにかわからないな、お前の言うことは。
妻 ……………。
夫 ……………。ごめん。
妻 ……………。
夫 夫、立ち上がり、壁を塗り始める。
突然、中島みゆきの歌を口ずさむ。
妻 !
夫 お前、もう、その、コンプレックスみたいなもの、やめろよ。あの人

が好きだったものを、全部嫌いになることないだろ。お前も好きなら、好きでいいじゃないか。真似って 言われたって、関係ない。

妻 ……………。

夫 俺は、…もう行かない、同窓会。

妻 ……………。

夫、ふたたび歌いはじめる。

見ている、妻。

ストーンと暗くなる。

三

夫、脚立の上から振り向いた。

夫 何？

妻 真似、してない。私、真似、してない。

夫 え？

妻 その歌、中島みゆき。最初に好きになったのは、私。真似したのは、…

あの人。

夫 ……………。

妻 信じられない？

夫 いや…………。

妻 信じられないよね。…だって、私は、妹。あの方は、…姉。だから、

あの人には、かなわない。

夫 いや、そういうことじゃなくって、

妻 何？

夫 だって、お前がいつも真似ばかりしてるって、言ってたから、…

あの方が。

妻 そっちの方が信じられる？

夫 いや…………。

妻 だって、そっちの方がわかりやすいもんね。姉の真似をする妹、っ

ていう方が。…姉の恋人を、好きになった妹、とか。

夫 ……………。

妻 信じなくていい。信じなくていいけど…………、最初に好きになった

のは、…私。

夫 ……それ、もしかして、お前…………

家の中から、電話の音が聞こえてくる。

夫 ……………。

妻 ……………。

二回ほどで、音は切れる。

妻 ……私は、十三歳で、テニス部の、球拾いばかりしてた。…あなたは、卒業記念に、大きな壁画を描いてた。校舎の壁に。…あの人は、生徒会室で、多分、あなたのことなんか、知らずにいた。

夫 ……………。

妹、が髪を濡らし、立っている。

妹 電話…………

夫 ん？

妹 電話が、きてるけど…………

夫 誰？

妹 ……………

夫 おい。

妹 ……義姉さん。

夫 ？

妹 前の、義姉さん。

夫 ……………。

妻 ……………。

厳しい沈黙。

しばらく、誰も動けない。

妹 ……………どう、する？

夫、敢然と歩きだす。

妻、夫、のカラダを後から抱く。

夫 ……………。
妻 ……………、だめ…………

動けなくなる、夫、と妻。
妹、行こうとする。

妻 どうするの？

妹 いや、なんか、適当に…………

妻 いい。

妹 え？

妻、妹、の横を通り抜け、出ていく。
夫、追おうともするが、諦めて、座る。

妹 ……………いいと？

夫 ……………

妹 ……兄ちゃん、行かんで、いいと？

夫 ……………

妹 ……夫婦の、話じゃないと？

夫 (激しく) わかってる。

妹 ……………

夫 ……姉妹の、話がすんでから…………

妹 ……………

妹、ふと、辺りに散らばっている紙片を見つける。

妹 あ。…(夫、に) 何で、こんなことすつと？

夫 ……………

妹 嫌なら、嫌って言えばいいがね。…こんなことせんでも。

夫 ……………。
妹 あたしはね、兄ちゃんがやめろって言ったなら、いつでもやめていいんやよ。
夫 ……………。
妹 やめろって言えばいいがね。…やめろって、言ってよ。
夫 ……………。しょうがないやろ、だって。
妹 何が？
夫 ……………。いるんやろ、子供。
妹 だから？
夫 だから、って…………。
妹 関係ないがね、そんなこと。結婚せんでも、子供は産めるんやから。
夫 ……………。
妹 兄ちゃんの——、兄ちゃんがどう思ってるかってことやろ、…一番、大事なものは。
夫 ……………。
妹 言ってよ。
夫 ……………。今日の、
妹 何？
夫 今日のお通夜。すぐ近所の、おばあさんやったんやけど、
妹 ……………？
夫 ……八十いくつで、十年ぐらいずっと寝たきりやったって。で、旦那さんが面倒みてたんやけど、旦那さんも体を悪くして…………、二人とも、疲れて…………。
妹 ……何？
夫 ……何があったのかはわからん。どんなこと、二人で話したのかも。…とにかく、旦那さんは、奥さんの首を絞めて…………。
妹 え？
夫 ……結婚するって、もしかして、そういうことかもしれん。自分を、殺してくれる相手を見つけていうか…………。

妹 ……………。
夫 ……俺は、お前のこと、殺してやれんもん…………。
妹 ……………。…じゃあ
夫 ……………？
妹 ……誰やったら殺してあげられるの？…誰に、殺してもらいたいの？
夫 ……………。
妹 ……………。
夫 ……いい、もう。
妹 ……沈黙。
妹 ……座り込む。
妹 ……ふたたび、沈黙。
夫 ……………、タイに行ったか？
妹 え？
夫 さつき、タイのトイレって…………。
妹 ああ。
夫 行ったか？
妹 うん。
夫 ……マサルとか？
妹 うん。
夫 ……そんな時の子供か、もしかして？
妹 うん。
夫 ……………。
妹 ……………。
夫 ……沈黙。
夫 ……ふと家の方を見る。
妹 ……………。行かんと？

夫 うん……………
妹 ……………。

沈黙。

夫 ……同窓会のこと、言ったっか？
妹 え？

夫 明日の、…（訂正して）今日の、同窓会。

妹 同窓会、って、…誰の？

夫 俺。…言ったっじゃねっか、お前が？

妹 何？何の話？

夫 だって……………、知ってた……………

夫、しばし言葉を失う。

妹 ……………同窓会があつと、今日？

夫 ……うん。

妹 中学校の？

夫 ……うん。

妹 向こうで？

夫 ……うん。

妹 ……………義姉さんが、知ってたの、それ？

夫 ……………うん。

妹 兄ちゃんは、どうやって？

夫 だって、ハガキが……………

夫、破いたハガキを拾って、

夫 お前が転送したっじゃねっか、実家に来たのを？
妹 （ハガキを受け取り）うんにや。

夫 ……じゃ、やっぱり、…あの人が直接こっちに……………
妹 見られたんじゃないと、義姉さんに、これ？

夫 だって、俺が郵便受けから直接とったんやから。

妹 ああん。（見て）……………ね。

夫 ん？

妹 これ、…消印がないんやけど、

夫 え？

妹 どういうこと？

夫、ハガキを受け取り、見る。

夫 ……………。

妹 ……それ、郵便で来たんじゃないと、ないんじゃないと？

夫 ……………。

妻、戻ってくる。

髪をあげ、唇には紅をひいている。

夫 ……………。

妹 ……………。

妻、何も言わず脚立にのる。

夫 ……………、電話……………

妻 切った。

夫 ……………。話は……………？

妻 うん。

夫 ……………。何て？

妻 別に。

夫 ……………。話した、本当に？

妻 ……………。
夫 すぐ切ったんじゃないのか？
妻 何で？
夫 だって、お前……………

妻、脚立の上から振り返る。

妻 何？
夫 ……………化粧、してる。
妻 キレイ？
夫 ……？
妻 私、キレイ、今？
夫 ……いや、そういう——
妻 キレイじゃない、私？
夫 ……………。
妹 義姉さん、このハガキなんですけど、
妻 ……？
妹 兄ちゃんたちの同窓会の。これ、消印がないんですけど、何でだか、
妻 知りませんか？
妹 ……………。
妹 これ、郵便で来たんじゃないですよ。ていうことは、誰かが、そ
のまま郵便受けに入れた。
妻 ……………。
妹 ……本当に同窓会ってあるんですか？
夫 ……！
妻 ……………、行かないでしょ、もう、どうせ。
妹 誰かが、兄ちゃんを試そうと思って、嘘の案内状を作った、そんな
ことないですかね？

妻、壁を塗る。

妹 義姉さん！
妻 ……………。

夫、突然、行こうとする。

妹 (夫、に) どこに行つと？
夫 ヨシダに電話してみる。
妹 ああ。…これ。

と、妹、は携帯電話を夫、に渡す。

夫 ああ。

夫、電話をかける。
妻、壁を塗っている。

夫 ……………あ、ごめん、俺。…寝ちよった？…うん、ごめん、夜中に。
…え？…ああ、まあ、元気。…うん、…あんよ、お前んとこ、案内状
来た？同窓会の？…うん、…うん、…うん、…うん、…わかった。…
また、電話するわ。…うん、ごめんな。

夫、電話を切る。

妹 ……………何て？
夫 ……あるって。
妹 え？
夫 今日、同窓会、あるって。
妹 ……………。

二人、妻を見る。

妻 ……押し忘れたんじゃないの、郵便屋さんが、…消印。

夫 ……。

妹 ……。

夫、手にしていたハガキを、ふたたび捨てる。
座る。

夫 ……教えてよ。

妻 ?

夫 何、話したのか。…電話。

妻 ……、返せって。

夫 え?

妻 あなたを返せって。

夫 ……。

妻 ……、満足?

夫 ……。

妹 嘘。

夫 ?

妹 義姉さん、嘘でしょ、それ。…そんなこと、言わない。言うはずないもん。

妻 何で?

妹 だって、あたしにはこう言いましたよ、「二人で幸せになつてくれればいい」って。

妻 それが本物?本物の気持ち?

妹 はい。

妻 何でわかるの、あなたが?

妹 ……、彼氏がいいます。

妻 ……。

妹 ……。

妻 ……。

妹 前の義姉さん、今、つきあってる人がいます。

夫 !

妹 ……ごめんね、兄ちゃん。…言えんがった。

夫 ……。

妻 違う。

妹 ?

妻 その人は違う。

妹 何ですか?だって、あたし紹介してもらいましたよ。

妻 その人は違う。つきあってるわけじゃない。

妹 ……知ってるんですか、義姉さん?

妻 ……。

妹 ……何でそんなに知ってるんですか?…同窓会のこととか、前の義姉

さんのこととか……。

妻 ……。

妹 あ。

夫 ?

妹 義姉さんじゃないんですか、ここの住所教えたの、前の義姉さ

んに。

妻 何が目的?

妹 え?

妻 連れ戻しに来たんでしょ、…あの人に頼まれて。

妹 だから、違うって言ったじゃないですか。

妻 あなたは、…頼まれたと思ってるんじゃないかもしれない。あの人がだって、頼んでないかもしれない。

妹 だから――

妻 でも、あの人は、ここを教えた。あなたにここ教えて、来ないはず

ない。この人(夫)だって、一番好きな妹が来て、向こうのこと気に

しないはずない。懐かしさ…、センチメンタル…、昔はよかった……

でも、義姉さんなんでしょ、前の義姉さんに、ここ教えたの。

妻 ……。

妹 ……。

妻 ……。

妹 どういうつもりなんですか？
妻 ……………。
夫 電話…………。
妹 何？
夫 あの無言電話、…全部、あの人が？
妹 無言電話？
夫 俺がでると、いつも切れて…………。お前とだけ、話してたんか？
妻 ……………、契約。
夫 契約？
妻 借りたの、一年だけ、…あなたを。
夫 ……………は？
妻 契約。
夫 ……何、言ってる？
妻 ……………。
夫 おい。
妻 ……だって、借りてるでしょ、ほら。だから、返さなくちゃいけないの、本当は。
夫 ……………。
妻 ……………。
妹 ……兄ちゃん。
夫 ……うん。
妻 飽きてたんだよ、だって、もう、あの人。周りが「夫婦」っていう名前で呼ぶだけで、もう男と女じゃなかったんですよ、あなたたち。
夫 ……………。
妻 だから、これ、契約。
夫 もうわかったから。
妻 (急に激して) わかってない。だってあなた、もう帰らなくちゃならないのよ。
夫 帰らんよ。
妻 だめ。…だって、これ、契約なんだから。

夫 ……………。もう、いい。やめよう。
妻 何を？
夫 いいから、もう、やめよう。
妻 ……………。

妻、突然脚立を降り、出ていく。

夫 ……………。
妹 ……兄ちゃん。
夫 ……ん？
妹 大丈夫、義姉さん？
夫 ……うん…………。
妹 契約、って、…義姉さんたちが話し合ってたってこと？
夫 そんなわけないやろ。…………。
妹 でも、それやったら、義姉さんが…………。
夫 何？
妹 ……………、おかしい、ってこと？
夫 ……………、わからん。
妹 だって、
夫 もう、わからんって！

妻、夫、のバッグを持って戻ってくる。

妻 (バッグを放り投げ) 返却期限。
夫 ……………。
妹 ……………。
妻 (ハガキを拾って) これ、貸出票だから。ちゃんと持ってってね。

と、妻、は夫、にハガキを差し出すが、夫、は受け取れない。

夫 ……………。

妻 ……わざわざ、あの人が持ってきてくれたんだから。

夫 ……え？ここに？ここに来たんか？…あの人が？

妻 そうよ。

夫 いつ？いつ来た？

妻 このハガキと一緒に。

夫 ……。…わからん、お前ら、何で…………、どういうこと？本当か、

これ、全部？

妻 ……。…契約。

夫 何よ、契約って？

妹 兄ちゃん、違うよ、やっぱり、義姉さんが、

妻 何？

妹 ……。

妻 何？

妹 ……。

夫 もう、いい。やめよう。

夫、妻、の手からハガキを取り上げ、破り捨てる。

夫 俺は、もう帰らん。(妹、に)お前は、…もう帰れ。

妹 何で？

夫 いいから。もう、やめよう、全部。

妹 でも、兄ちゃん、

妻、破られたハガキを拾いはじめる。

夫 おい、やめろって。

妻、やめない。

夫、無理矢理にその紙片を取り上げ、

夫 やめろって！

妻 ……。

妻、脚立にのり、壁を塗り始める。

夫 おい！

夫、妻、の後から脚立にのり、妻、のカラダを押さえる。

夫 もう、やめろ！全部、なし！

妻 ……。

夫、妻、を脚立から引きずりおろす。

その後、脚立を倒し、

夫 ……。…もう、なし。今までののは、全部。

沈黙。

妻 私、

夫 え？

妻 本当は、先に生まれたの、あの人より。私、姉、あの人、…………妹。

ストーンと暗くなる。

四

誰もいない。
脚立は倒れたまま……………

しばらくして、妹、がコンビニの袋を提げて戻ってくる。

妹 あれ……………

妹、は袋を置き、出ていく。

しばらくして、夫、が戻ってくる。

シャツのボタンを外し、ズボンからだしている。

夫 (袋を見て) あ。

そのまま、出ていく。

しばらくして、妻、が戻ってくる。

髪をおろし、口紅も消えている。

袋を見て、そのまま座る。

ふと、自分の足を触る。

ストッキングは、はいていない……………

夫、と、妹、が話しながら戻ってくる。

妹 ……ね、あの人が、いつもこの時間入っちゃった？

夫 あの人って？

妹 だから、あそこのコンビニの店員よ、レジ打ってる。

夫 ああ、あの丸っこい人？

妹 (妻、を見て) ただいま。

妻 (微笑)

夫 (妻、に) ね、あのコンビニの店員、こう、丸っこい、

妹 じゃなくて、がっしり、って感じやろ。

夫 (妻、に) その、がっしり、で、丸っこい人。あの人が、いつもいる？

妻 (うなづく)

妹 (妻、に) カッコイイですよ、あの人が。

夫 お前、全然違うがよ、マサルと、タイプが。

妹 だから、いいんやがね。ね、義姉さん。

妻 (微笑)

夫 ……わからん。

妹、コンビニの袋から缶ビールやおつまみを出し、並べる。

妹 (出しながら) これで、よかったですかね、ビール？

夫 (へんなおつまみを見つけ) 何よ、お前これ、「柿の種レモン味」っ

て？

妹 おいしいんやって、それ。

夫 本当かよ。

妹 びっくりした、こっちにも売ってるんやね。

夫 ああ、今、どこでもあるからな。コンビニとか。

三人、ビールを開けながら、

妹 (妻、に) 行く時、真っ暗で…。あそこだけポツンとあるじゃないですか、コンビニ。なんか、コンビニだけが生きてるって感じだった

夫 ……荒野の中の、コンビニ。

妹 おい。

妹 うん。…じゃ、…ってあたしが仕切っていいんけ？

夫 いいから。
妹 …じゃ。

三人は、軽く缶を合わせ、飲む。

夫 (おつまみを開けながら) 今、でも、どこもそうやろ。
妹 何？

夫 荒野の中のコンビニ。日本中。

妹 ああ。

夫 コンビニなかったら、死ぬかもね、日本人。
妹 どうやろ。

夫 (食べて) あ、うまい、これ。
妹 じゃろ？

妹、も食べ、妻、におつまみを差しだす。

妹 …ああいう人見ると、こう胸がザワザワってしますよね。人を好

きになる時の、最初の感じ。

夫 丸っこい人か？

妹 がっしりした人。…でも、もうダメかなあ。

夫 何が？

妹 あたし、子供いるし。

夫 だから、何が？

妹 (妻、に) どう思います？

夫 おい。

妹 …あ、義姉さんは、だって、そういうの、ちゃんとやったんですもんね。
妻 …んね。

妹 だから、…妻とか、母とかじゃなくって、女としての、…気持ち。

それ、ちゃんとやったんですもんね、こうやって。…あたし、やっぱ

り臆病だから、そういうの、結局できないような気がします。きつと、このまま、ズルズルって結婚して、子供産んで……。 (笑顔で) さみしいっ。

妻 (微笑)

妹 あたしだって、マサルとはじめの頃は、こう胸がザワザワって、

…あれ、どげんやったけ？

妻 (微笑)

妹 …何で、でも、ああいうのって、なくなるんですかね？最初の頃の、…胸のザワザワ、みたいなヤツ。なんか、こう、だんだんカタチだけになるんですよねえ……。

夫 だって、お前、それ——

妹 男の人は黙っちよって。女の話をしてるんだから。(妻、に) ねー。

妻 (微笑)

夫 ………。

夫、おつまみをボリボリと食べはじめ。

妹 …義姉さん、マサルと会ったこと、ありましたっけ？

妻 (首を横に振る)

妹 そっかー。

妻 …？

妹 いや、知ってれば、ほら、アドバイスでも、もらおうかと思って。

夫 (突然) あ、これ、ピーナッツも入ってる。

妹 もう、兄ちゃん、うるさい。

夫 ………、お前、もう、…そろそろ……

妹 えーっ。まだ、だってビール飲んでないよ。

夫 遅くなるやろ、だって。

妹 遅いがね、もう、どうせ。

夫 車が通らなくなるってことよ。

妹 だったら、朝にするが。徹夜で飲んで。

夫 おい！
妹 ……、わかったから……。

妹、渋々、立ち上がる。

妹 ……シッコしてくっじ。

妹、行きかけて、立ち止まり、

妹 ……兄ちゃんも、早くしてね。

夫 あ、……うん。

妹、出ていく。

夫 ……。

夫、ゆつくりと立ち上がる。

妻、が、近寄り、シャツのボタンをかけてやる。
終わって、

夫 ……、ありがとう。

妻 (微笑む)
……。あ、俺、あれ返してくるわ。

と、夫、はコンクリートを塗った木片を持って、出ていく。

妻、ふたたび座り、ビールを飲みながら、壁をながめる。
すぐに夫、帰ってきて、

夫 やっぱり、いいか。もう、こんな、汚したし……。

夫、木片をコンクリートの山の中に戻す。

夫 ……あれ、ちゃんと、返しといて、朝にでも。

妻 ……？
夫 あの、ほら、投光器。
妻 (投光器に目をやる)

沈黙。

夫 ……。(妹、の去った方を見て) 遅せー。

妻 ……。

夫 ……明日、…明後日の、夜かな、やっぱり。

妻 ……？
夫 ……こつちに、帰ってくるの。

妻 ……。
夫 ……だから、本当、お前が言うこと、信じてないわけじゃないんやけど、…そこらへんのこと、はつきりさせて……。それから、いろいろ、ちゃんとして、…今度は、本当 にきっちり……。それが終わったら、すぐ帰ってくるから。

妻 ……。
夫 ……もう、ちよつと北に行こうか、そしたら。ロシアまでは、行けんかもしれないけど。

妻 ……。

夫 ……おい、教えて、ロシア語。簡単なヤツ。
妻 ……Привет。(プリーヴェート)

夫 ……え？
妻 (ゆつくり) Привет。

夫 ……それは？
妻 「こんにちは」

夫 ああ。

妻 Спасибо. (スパシーバ)

夫 あ、聞いたことあるわ。

妻 Спасибо.

夫 スパシーバ。…これは？

妻 「ありがとう」

夫 ああ。

妻 До свидания. (ダ スヴィダーニヤ)

夫 ダ…………、ダ…………。これ、何？

妻 ……………。

夫 ね。

妻 Вы не туда попали. (ヴィ ニ トウダー パパーリ)

夫 ……………、ビニ…………

妻 「番号をお間違いです」

夫 ……………ああ。…使うことあるかな…………。

妹、戻ってきて、

妹 義姉さん、ちょっと。

妻 ？

妹、妻、を連れて出ていく。

夫 ……………。…(思いだして)ダ…………、ダ…………、

が、やはり思いだせずに、あきらめる。
家の中から、電話の音が聞こえてくる。

夫 !

三回ほどで、音は切れる。

夫 ……………。

夫、はあたりに散らばっている紙片や、ゴミなどを拾い
はじめる。

そして、拾ったものをすべて、自分のバッグの中に押し
込める。

妹、が立つ。

女性らしい格好に着替えている。

妹 兄ちゃん。

夫 (振り返り) お。

妹 どう？

夫 どうしたんよ、お前、それ？

妹 もらった。義姉さんに。

夫 え？

妻、も立っている。

妹 似合う？

夫 (妻、に) それ…………、いいの？

妻 (うなづく)

夫 ……………。

妹 キレイ？女の人みたい？

夫 ……………ふふ。

妹 義姉さんとどっちがキレイ？

夫 ……………え？

妹、突然夫、の手を握り、

妹 こうやって歩いたら、恋人同士に見えるかな。(と、歩きだす)
夫 おい。

妹 (妻、に) それとも、夫婦に見えます？

妻 ……。

夫 もう、やめろって！

夫、妹、の手を振り払う。

妹 ……。冗談やがね。

夫 ……。

妻、座って、ビールを飲む。

夫 ……。電話、誰？

妹 ああ、ケンジ君。ヨシミ叔父さんとの。

夫 え、何で、あいつが？

妹 テレビ見たって。ニュース。うつってたってよ、やっぱり。

夫 ……。(妻、を見る)

妻 (ビールを飲んでいる)

また、電話が鳴る。

夫 いい。

と、言い残して、夫、出ていく。

すぐに、電話の音がやむ。

と、また、電話が鳴る。

すぐに、やむ。

夫、戻ってくる。

妹 (夫、に) なんか、前の義姉さん、みんなに言ってるみたいやよ、
この番号。

妻 (つぶやくように) Вы не туда попали.

夫 ……。(妻、に) 外しといたから、受話器。俺が帰ってくるま
で、でらんでいいからな。

妻、中島みゆきの歌を口ずさむ。

夫 ……。(妹、に) お前、もう、先行つとけ。

妹 え、先って？

夫 ……。あの、コンビニのこと。

妹 ああ。…(妻、に) じゃ、義姉さん、あたし、もう帰りますね。

妻 (歌っている)

妹 ……。結婚式、決まったら連絡しますから、絶対来てくださいね。

妻 (歌っている)

妹 ……。

夫 (妹、に) いいから、もう。

妹 ……。うん。じゃ、コンビニのところね。

夫 うん。

妹、出ていく。

しばらくして、妻、突然歌うのをやめる。

夫 ……、あれ、

妻 ?

夫 あの、ワンピース。あれ、好きだったヤツやろ。…一年前にも、確

か、着てたし……。

妻 ……。

夫 いいの、本当？

妻 (夫、を見る)

夫 ……何？

妻 ……ごめんね。

夫 ……、何が？

妻 真似してたの、結局。…逆らって、逃げて…、でも、本当は真似してたの、私。

夫 どういうこと？

妻 あれは、あのワンピースは、…お姉ちゃんの。

夫 !

妻 私が、抽斗から勝手に借りて、ずっと、そのまま……。真似してたの、結局。…でも、だって、ずっと、そこにいたんだから。私が、生まれてきた時にもう、…そこにいたんだから……。

沈黙。

夫 ……わかるよ。

妻 ?

夫 俺だって、生まれた時には、もう、父さんと母さんがいて、家があって、学校があつて、日本があつて、世界があつて……。だから、わかる。…真似、してしまうんよね。しょうがない。

妻 ……。

夫 ……結婚しよ。

妻 ……え？

夫 向こうで、全部ちゃんと整理してくるから。そしたら、今度は、本当に、夫婦になって…、二人ではじめから、全部やり直して…、だから、…しよ、結婚。

妻 ……ありがとう。

夫 (微笑む)

妻、そのまま、コンクリートの中に手を入れ、その一塊

を夫、の顔に塗る。

夫 !

沈黙。

突然、笑いだす、夫。

笑いだす、妻。

夫、も顔に塗られたコンクリートを、妻、に塗り返す。さらに、笑う、一人の男と一人の女が、そこにいる……

妻 ……。いらぬ。そんな、わかりやすい答え、いらぬ。

妹、が戻ってくる。

妹 (見て) 何やちよつと？

夫 ……。

妻 ……。

夫 行こ。

妹 どげんしたと、兄ちゃん、それ……？

夫 いいから。行こ。

妹 でも、

夫 朝になるぞ、もう!

夫、バッグを拾い、出ていく。

妹 兄ちゃん。

と、追いかけていく、妹。
すぐに戻ってきて、

妹 (妻、に) よかったんですか、本当に、もう。

妻 (微笑)

妹 ………。じゃあ……………、また、シー・ユー・アゲイン、つてことで。

妻 (微笑)

妹 ………。

夫、が戻ってくる。

妹、の手を握る。

妹 ?

夫、一瞬、妻、の顔を見た。

夫 ………。

すぐに踵を返し、妹、と手をつないだまま、

まるで、一年前そうしたのと同じように、

ここから、

走り去った……………

妻 ………До свидания.

妻、は、倒れていた脚立を立て、ふたたびコンクリートを塗りはじめ。

やがて、妻、は、このコンクリートの城壁に囲まれ、たったひとりこの城に住む、王、となるだろう……………

と、

ラジオが突然鳴りだす。

……………光。

朝、が来るのかもしれない……………

この城の、王、らしき女は、ただそれを見ているだけしかできなかつた……………

ストーンと暗くなる。

—— 終 ——